

2022年3月8日
東日本旅客鉄道株式会社

光ファイバ心線のさらなる貸出利用の拡大について

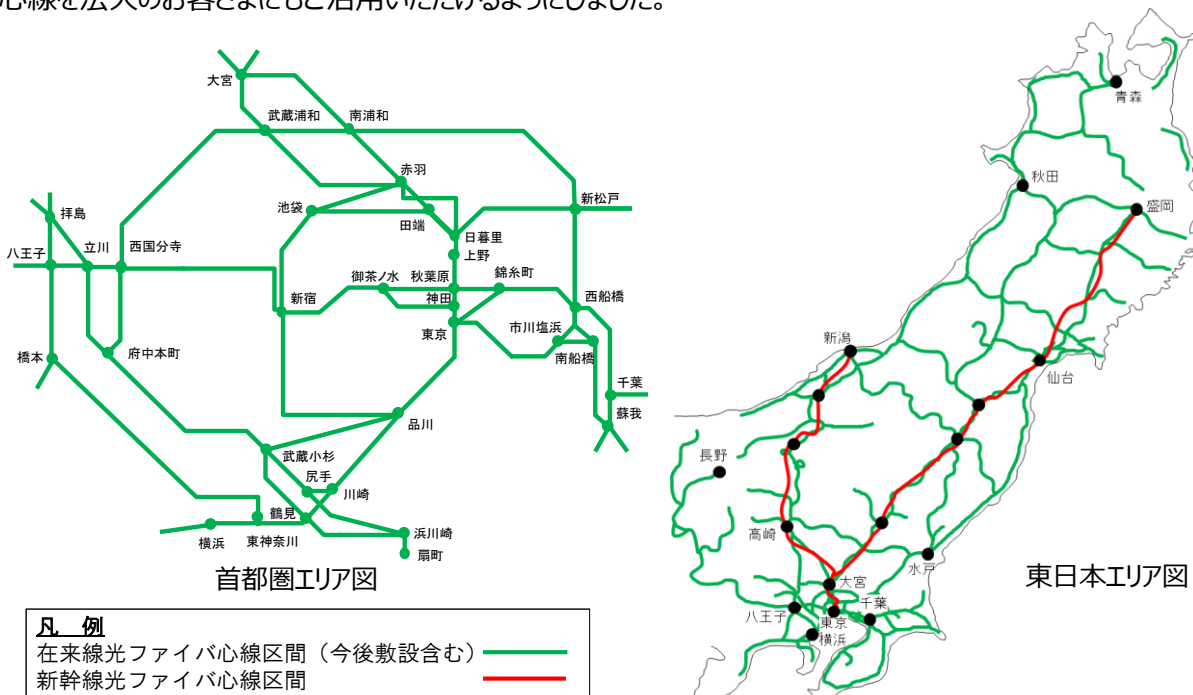
～地域をつなぐ データをつなぐ～

- JR東日本は、当社の強みであるリアルなネットワークとデジタルを掛け合わせ、新しい暮らしの提案や新領域への挑戦に取り組んでいます。
- この一環として、鉄道事業用にJR東日本が保有している光ファイバ心線の貸出可能エリアや具体的な活用例を明確にすることなどで、さまざまな法人のお客さま[※]に、より一層ご活用いただきやすくなりました。「高品質」、「高信頼性」、「広域性」が強みであるJR東日本の光ファイバ心線で、大容量・高速データ通信ネットワークの構築をサポートします。
- 特に、貸出可能な光ファイバ心線数が比較的多い東北・甲信越エリアにおいて、光ファイバ心線の活用方法を積極的に提案し、東日本エリアのデジタル基盤を支えます。
- 鉄道インフラを起点とし、光ファイバ心線でも都市と地域、そして地域と地域のつながりを活性化することで、地域社会の発展とDXの推進に貢献します。

※電気通信事業者、公益事業者、一般企業、学校法人、自治体などを想定

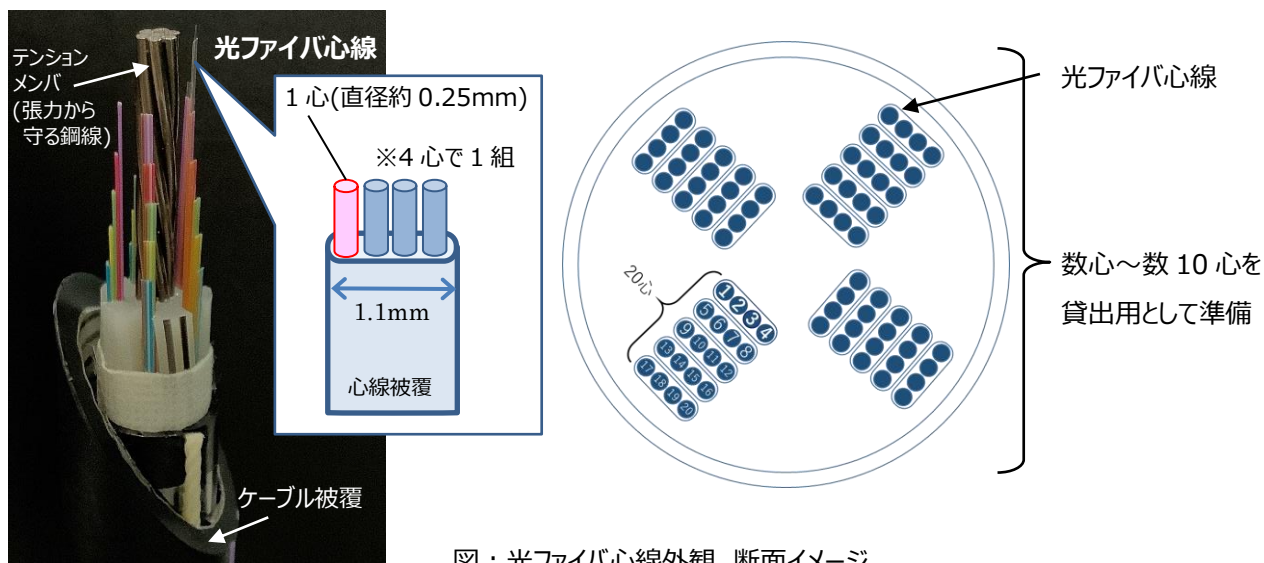
1 JR東日本の光ファイバ心線提供エリアについて

JR東日本は鉄道線路沿いに光ファイバ心線を敷設しており、その距離は約7,200km(光ファイバ心線敷設予定区間含む。営業キロの約97%)となります。これまでは主に鉄道事業をはじめとした自社利用のために使用していましたが、情報通信技術の進展に伴う世の中のデータ通信量の増大などを踏まえ、光ファイバ心線を法人のお客さまにもご活用いただけるようにしました。



＜光ファイバ心線について＞

光ファイバ心線とは、透過率の高い石英ガラスやプラスチックなどで作られた光の伝送路であり、1本1本は非常に細い繊維状となっています。大容量・高速データ通信が可能であり、インターネット回線などに用いられます。

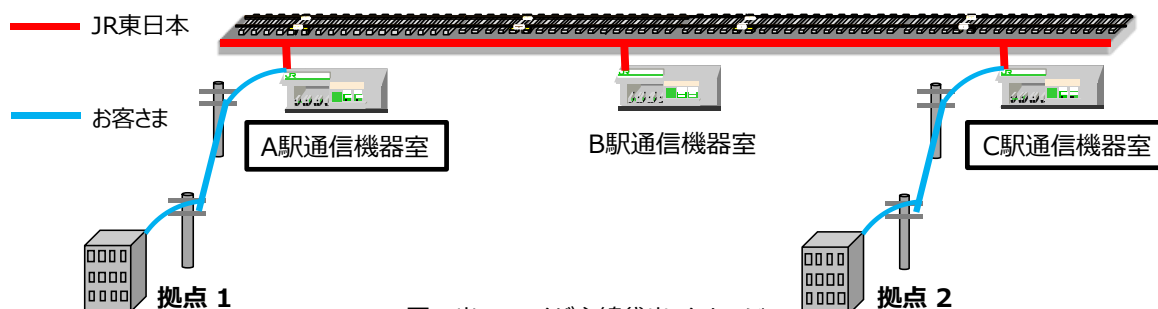


図：光ファイバ心線外観、断面イメージ

2 貸出の概要

鉄道の駅から駅までの光ファイバ心線を貸し出します。駅の光ファイバ心線を収容する通信機器室から拠点の目的地までは、お客さまがネットワーク構成していただきます。

| | |
|---------|--|
| 貸出料金 | 線区・区間・距離および利用年数により算出 |
| 貸出心線単位 | 1心単位 |
| その他貸出要件 | 当社ホームページをご参照ください https://www.jreast.co.jp/cable/ |



図：光ファイバ心線貸出イメージ

3 JR東日本の光ファイバ心線の特徴

| | |
|-------|--|
| 高品質 | 拠点間を直線的に接続。伝送損失が少ない高品質な光ファイバ心線を提供。 |
| 高信頼性 | 鉄道沿線の堅牢な管路に敷設しているため、災害や事故の影響を受けにくく、極めて信頼性が高い光ファイバ心線を提供。 |
| 広域性 | 東日本エリア全域に光ファイバ心線を敷設しており、広域にわたるネットワークの構築が可能。 |
| 豊富な拠点 | ニーズにあわせた箇所（駅）での相互接続が可能。 |
| 豊富な実績 | 2007年に光ファイバ心線貸出のサービスを開始。貸出総心線距離約1,000km [*] の豊富な経験と実績を保有。*2022年2月現在 |

4 JR東日本の光ファイバ心線の特徴を生かしたネットワーク構築

主要ルートでの活用のほか、複数線区の光ファイバ心線を利用することにより迂回ルートなどの構築も可能となり、安全安心なネットワークを構築することができます。

(活用例)

- 40 心以上提供可能な東北・甲信越エリアにおける企業の本店・支店、データセンター間の接続
- 太平洋沿いの海底ケーブル陸揚げ局と首都圏をつなぐルート構築
- 日本最大の IX[※]エリアである東京駅周辺（大手町）から各方面へのネットワーク展開
- メッシュ状に敷設された光ファイバ心線の活用による障害や災害に強いネットワークの構築
- 専用の光ファイバ心線によるセキュアな通信環境の実現

※IX：Internet Exchange の略。インターネットに接続する際、さまざまな事業者のネットワークを相互接続する拠点

5 光ファイバ心線の拡大と新領域への挑戦に向けた今後の展開

- 多くの需要が見込まれる線区や区間に対し、光ファイバ心線の新たな敷設を検討します。
- お客さまのご要望に対して、柔軟に対応可能な高速データ通信サービスの提供を検討します。

6 今回の取り組みによりJR東日本が目指す姿

- 鉄道インフラを起点とし、経営環境の変化を先取りした新たな価値を社会に提供します。
- 鉄道事業以外の事業を拡大させることにより、柔軟で強固な経営体質を作り上げます。
- 技術と情報を中心にネットワークの力を高め、都市と地域、地域と地域を結び、地方創生に貢献します。
- DX の推進により、イノベーション戦略の再構築を目指します。